



第
2530
地区

福島西ロータリークラブ会報

会長 相澤 隆
幹事 佐藤 卓立

クラブ奉仕委員会
委員長 黒澤 信之
会報・雑誌・広報・
IT 小委員会委員長 大平 謹一郎

令和元年9月9日(月) 第9回 通算第1543回例会

・例会日/月曜日12:30 ・例会場/ウェディング エルティ ☎(024)535-6188

事務所/福島市栄町5の1 ホテル辰巳屋7F ☎(024)524-1010・FAX(024)524-1011 Eメール/f-rotary@guitar.ocn.ne.jp

第9回例会 点鐘12:30

- ◇開会点鐘 相澤 隆会長
- ◇国歌斉唱、ロータリーソング「我等の生業」
ソングリーダー 西形 健 吉会員
- ◇会長あいさつ 相澤 隆会長



大分秋らしくなってきたかと思ったら、厳しい残暑、台風と目まぐるしく気候が変動しております。「秋の空は七度半変わる」と言いますが、本

当に秋の天気の良いやすさを実感しております。さて、先週の例会後に、夕方から理事会が開かれ、当面する事業について協議をいたしました。まず、当クラブの最重点事業であります「少年野球大会」につきましては、12日に代表者会議が開催されます。後ほど詳しい説明があるかと思いますが、実行委員会の皆様には、お忙しい中恐縮ですが、よろしくお願いをいたします。また、10月にはガバナー公式訪問、地区大会と重要行事が控えており、準備も本格化してまいりました。特に、地区大会では全員登録・参加に加え、実行委員会から当クラブに対して「コ・ホストクラブ」として受付、会場案内等のお手伝いをしてほしいという要請が来ておりますので、ご協力をお願いいたします。

話は変わりますが、先週の土曜日に、大玉カントリークラブでゴルフをしてきた時の事です。いつもフェアウエーでプレーしている皆さんは気付かないと思いますが、林の中に入りましてところ、手のひらサイズの大きなキノコが100本ぐらい、周り中にビッシリと生えておりました。また、行きつけの酒屋に顔を出しますと、「秋あがり」や「ひやおろし」といった秋限定の銘柄が目につくようになりました。「秋あがり」とは、春先に製造して火入れしたお酒を貯蔵タンクの中で冷蔵して夏を越します。そして秋を迎える頃に、熟成して香りや旨味がのってきたものを瓶詰めの時に2回目の火入れを行って出荷したものです。一方、「ひやおろし」の方も秋あがりの一種ではありますが、火入れは製造時の一度だけにして、生詰めのまま出荷したお酒を指すとのことでした。

今週の金曜日は「中秋の名月」でもございますので、こよなく酒を愛し、酒と旅のうちに生涯を終えた若山牧水のように、「白玉の 齒にしみとほる 秋の夜の 酒はしづかに 飲むべかりけり」と楽しんでみて

はいかがでしょうか。

さて、本日は、根本会員の新会員スピーチ、各委員会セミナー報告など、多彩なプログラムが予定されておりますので、あいさつの方はこの辺で終わらせていただきます。

◇幹事報告 佐藤 卓立幹事

○例会変更のお知らせ

・9/10(火)福島北RCの例会は9/9(月)ガバナー 歓迎晩餐会に振替変更になっております。

・当クラブ16日、23日は祝日の為休会になっております。

○その他のお知らせ

・10/27(日)パルセいいざかにて開催される地区大会は行き帰り共に福島駅西口よりバスにてご案内致します。大懇親会含め、皆様是非ご参加くださいますようお願い致します。

・9/14(土)郡山ユラックス熱海にて職業奉仕委員会セミナーが開催されます。当クラブからは渡辺敬蔵委員長が出席されます。

・9月ロータリーレートは1ドル106円となりますのでお知らせ致します。

委員会報告

◇社会奉仕委員会報告 高梨 哲 男委員長

・少年野球大会について

◇出席・スマイリングBOX小委員会 黒澤 信之委員長

○相澤 隆会長=根本会員の新会員スピーチ、各委員会のセミナー報告、よろしくお願いをいたします。

○佐藤卓立幹事=根本いずみ会員新会員スピーチよろしく御願いを致します。各委員長セミナー報告よろしく御願いを致します。

○久米允彦会員=久しぶりに台風が来たようです。荒天の中、皆様御苦労様です。根本さんのスピーチ御期待いたします。

○佐藤宗弘会員=国際奉仕委員会セミナー報告させていただきます。つたないスピーチですが宜しくお願い致します。

○根本いずみ会員=本日はスピーチの当番なので、夏休みの宿題を発表する気分です。

○黒澤信之会員=根本さん、スピーチ楽しみにしております。セミナー報告は短めに済ませますので宜しくお願いいたします。

——根本いずみ会員の新会員スピーチによせて——

○大平謹一郎会員 ○高梨哲男会員 ○高橋智弘会員

本日のスマイリングBOX集計9件 17,000円
ご協力頂きました皆さん、ありがとうございました。

◇会報・雑誌・広報・IT・小委員会報告 大平 謹一郎委員長
*「友」9月号紹介



ロータリーの友9月号の紹介です。

横組3P RI会長メッセージが掲載されています。

「ロータリアンとロータリー家族の皆さん」機会を見つけて、

家族をロータリーのみんなに紹介してはいかがですか。子供達をロータリーのイベントに参加させる事は子供達の目を世界に向けさせる事にもなります。

9月は基本的教育と識字率向上月間・ロータリーの友月間です。

横組7P 基本的教育と識字率向上月間の特集記事「言葉が人の未来を育てる」が載っています。

横組12P ロータリー月間にはロータリーは世界をつなぎ「友」は日本をつなぐ 66年目のロータリーの友との表題で載っています。義務ではなく権利として購買して下さい。ロータリーの友地区代表委員はガバナーにより任命されガバナーの代理として地区を代表し「友」誌制作に携わる委員です。今年度2530地区代表委員は福島中央RCの筋内一典会員です。

横組20P 以下に、2020年国際大会開催地ホノルル「ALOHA ROTOTARY」が載っています。2020年6月6日～10日開催

横組36P よねやまだよりには8月号に引き続き、米山記念奨学事業の基礎知識寄付金、財政編が掲載されています。

縦組み 表紙 チェスリー・R・ペリーさんRI初代の事務総長で32年間務め続けた方です。1911年1月創刊の「THE NATIONAL ROTARIAN」(後の「THE ROTARIAN」)の生みの親で職業奉仕を強調した事でも知られています。

縦組P4のSPEECH 日銀金融機構局の宮田慶一さんの講演の要旨が載っています。

One For All, All For Oneの精神、ラグビーから学んだ和の心

今月の20日からラグビーワールドカップが日本で開催されます。

縦組P9 この人を訪ねて 八尾東RC会員 木村皓一さん。子供服メーカー ミキハウスの社長さんです。3才の頃にポリオに罹患し右足が不自由になったがリハビリに励み、病気を克服し、26才の時に野球を経験した。

甲子園 全国ロータリークラブ野球大会では2連覇している八尾東RCのサードです。

縦組P26 第2530地区の記事です。楽都郡山で5月25日に行われた。郡山南RC主催

「第24回全日本ロータリークラブ親睦合唱祭」の様子が掲載されています。

◇本日のプログラム———新会員スピーチ

○東邦銀行西福島支店長 根本 いずみ会員
東邦銀行西福島支店の根本いずみです。7/22からロータリークラブの一員として例会に参加させてい



ただいから2ヶ月経っていないところですが、スピーチを仰せつかりましたので自己紹介を兼ねた話をさせていただきます。昭和41年11月生まれ、

女性としては希少な「丙午」どしです。出身は福島市。この会場の近くの郵政アパートで育ちました。小学生の頃はエルティさんが建つ前の一面の田んぼで道草をしておたまじゃくしを採るのが得意だったこともあり、この例会会場には縁を感じます。

ロータリーの目的は「奉仕の理念を奨励し、これを育むこと」ですが、私の奉仕活動のはじまりはガールスカウトでした。小学校3年生から中学1年までガールスカウト福島第5団に所属。きっかけはキャンプや手旗信号などアウトドア的な活動が目的で入団しましたが、いちばん印象に残っているのは毎年10月に行っていた「赤い羽根共同募金」です。3人1組となり、コルニエツタヤ前で首から箱をさげて募金を呼びかけました。はじめは大きな声を出すことや道行く人に声をかけることがとても恥ずかしかったのですが、募金をしてくださった方から「がんばってね」と声をかけてもらえたことが嬉しくて、どんどん声が大きくなりました。子供ながら自分が社会に貢献しているという自負が芽生えた時だったかもしれません。中学生からは部活動に熱中し、岳陽中学校バレーボール部に入部。運動神経は少し自身があったので本当は目立つアタッカーをめざしていましたが、身長が152cmしかなく、セッターの道しかなかったのですが、身長が152cmしかなく、セッターの道しかなかった。高校では背が低いことがあまりハンデとならないハンドボール部に入部。ハンドボールは県北ではマイナーなスポーツですが、運動量が激しく、当時は1日6食食べても体脂肪率の低い体型をしていました。その後仙台の短大を卒業後、「普通のOL」を夢見て銀行に就職しました。時代はバブル経済の中、空前のスキーブームでもあり、乗り遅れることなく冬のボーナスでスキー一式購入し始めました。ブームが去ってからも週末スキーヤーを50歳まで続けていたほど、毎年山に雪が積もる季節が楽しみでした。

そんな運動系女子のワタシですが趣味特技を聞かれたときは「三味線」と答えています。就職して25歳から始めたものですが「三味線」というと必ず驚いてもらえるのでちょっと嬉しくなります。それまで楽器の経験はなく、カラオケのレパートリーも少ない、音楽にはあまり興味の無い方でしたが、今や師匠の演奏を生で聴いた時にその音色に感動し即決で門を叩きました。仕事や会社とはまったく別世界の環境は、よい刺激とストレス発散になったのか、続けてきた今では「藤本流」の名前もいただきました。「藤本流」は初代家元が昭和の時代に民謡三味線を全国に普及させた第一人者で、日本全国はもとより海外にも名取がいる流派です。三味線はどれも同じようですが「太棹」「中棹」「細棹」と3つの種類があり、流儀や用途によって違います。太棹は津軽三味線や義太夫など音が大きく、弾くというよりは叩くというイメージ

ジです。中棹は私の使っているもので民謡の伴奏や音の演奏に使われます。細棹は民唄用として使われています。三味線の材料の木は、「紅木」「紫檀」「花林」など外国産の木材を使用しています。和楽器なのに以外ですが、日本産は気質が柔らかいので三味線には適さないそうです。また、撥の素材は「象牙」がいちばんよいとされていますが、現在はワシントン条約で規制され手にはいらないためプラスチック素材で代用されています。糸は「絹」です。三本の糸はそれぞれ太さに違いがあり太い方から「一の糸、二の糸、三の糸」と呼びます。そして胴の部分に貼ってある皮は「ネコ」というのは知られていますが、実は「イヌ」もあります。上等なのはネコ皮ですが、長持ちするのはイヌ皮です。特にネコ皮も若い猫が最高級とされており、響きを重視する楽器なのでピンッと張った皮のほうがよいというのは納得するしかありません。皮は高い温度や湿気にとっても弱く、保管状態が悪いととても大きな音を立てて破裂し破れます。車のトランクスに入れればなしにするのは厳禁で特に暑い夏は家の中でもいちばん涼しいところに置いておきます。

三味線の稽古で最初に教わることは「構え」です。正座した右足の上に三味線の胴を斜めに置き、一見棹を左手で支えているようですが、実は左手は添えているだけで撥を持った右手で動かないようにバランスを取っています。撥は手首だけで動かすようになるので、この構えのバランスが少しでも崩れると撥が糸に当たらず音が出なかったり、引っ掛けたりすることになります。次に糸の調子を合わせるチューニングを行います。基本は3種類で「本調子」「二上り」「三下り」といいます。ドレミに置き換えるとそれぞれドファド、ドソド、ドファシと微妙な音の差を耳と感覚で合わせます。不思議なことにピッタリと合わせられた瞬間、三本の糸、三絃が共鳴する仕組みになっています。ここを妥協して適当に合わせてしまうと、どんなに譜面通りに弾いても所謂「調子っぱずれ」な演奏となってしまいます。三味線の楽譜は流派によって多少違いはありますが、五線譜ならぬ三本の線に音の高さと長さを記してあります。音の高さはそれぞれ糸の押さえる場所「ツボ」で変わります。ツボは譜面に数字まで表されており、藤本流はいちばん低い音となる開放弦を0として1から14までのツボがあります。ただし三味線本体にはギターフレッドのようにはっきりとした位置の目印は全く無く、どの位置が正しいツボなのかは耳で聞き分け動かす手の感覚を体で覚えこむのです。この弦のツボを押さえるところを「勘所」といいます。物事の肝心な点をしっかり捉えることを「勘所を抑える」と言いますが、まさに三味線の用語として使われていて、ここを正確に押さえられないと「勘所がズレてる」と言われてしまいます。このように話をすると三味線をしてとも難しいものに思われてしまうかもしれませんが、初心者には勘所の目印がわかるメジャーのようなセットがあり、私の三味線にもそれを基準にした目安のシールを貼っています。音が外れているな？と思ったときは秘かに目で見て確認す

るとい裏技を使っています。三味線の実物がないのでイメージが分かりづらかったと思いますが、皆さんも機会があったら是非三味線の音を生で聴いてください。私の腕前では感動が伝えられる自信がありませんが、少しでも興味をもっていただけたら嬉しいです。

今日は金融・経済の話はひとつもありませんでしたが、今日のスピーチを機会に皆さんとより親しくしていただきたいと思っています。そして今一番の目標は早くロータリーソングを大きな声で歌えるようになることです。只今YouTubeで練習中です。以上、聞いていただきありがとうございます。

◇セミナー報告

○社会奉仕委員会

高橋 哲 委員長



私の業においては最悪の日にセミナーが開催されました。国際奉仕活動への一環として、国際RC3360地区 タイ・チェンライRCパスト会長原田義之さんより数々のタイ・アオ族への支援活動の実績を熱心に語っていただき、ひさしぶりに感動いたしました。

さて、社会奉仕はRCの重点分野ですので

- ①平和構築と紛争予防(これはきわめて、政治的な側面が関係しますので、我々に出来る事は限定的では)
- ②疾病予防と治療③水と衛生④母子の健康⑤基本的教育と識字率向上⑥地域社会の経済発展

問題提起 旧態依然の言葉

- ①性感染症の増加(福島全国3位)→半年前にも同じ話

- ②環境問題(プラスチック)③ 食品ロス

これらは我々が悪い意味でも常に甘受している事で、このセミナーと名がつく集いでいつも問題提起だけで終わるのはいかがなものか。常にわかりきった事柄を念頭に奉仕を継続させなければならぬのは、永遠のテーマでありロータリアンとしての使命なのか？

○国際奉仕委員会

佐藤 宗 弘委員長



8月31日(土)ホテル華の湯にて国際奉仕委員会セミナーが開催されました。基調講演としてタイ国チェンライRCパスト会長の原田義之氏を講師に迎

え、「輝く瞳に会いに行こう」と題して講演されました。原田義之氏は64歳で会社経営から身を引き、第2680地区高砂青松RCで20年間培ったロータリーの奉仕の心を行動に移すことを決意、1年間で兵庫県国際協会の外国人向けの日本語講習で資格を取得、夜はタイ語の教室に通い、教壇に立つ自信がついた段階でタイ行きを決められました。タイ北部の貧困な子供たち支援のため、ミャンマー、ラオス、タイ国境近くのワーヴィー村に身を移して、ロータリアンの奉仕の在り方の一つI SERVEの実践を北タイ少数民族・アカ族子供寮「夢の家」の子供への「就学支援」と

「識字率向上」奉仕を私財を投じて始められました。一ロータリアンとしての行動である国際奉仕・未踏の一步を踏み出されました。64歳までの社会人生とそれからの奉仕人生の二つの人生をたった一度の人生で生きるという選択をしたのです。その結果、今は北タイ貧困の現地に入り、チェンライにありますタイ国立ダムロン高校でボランティア日本語教師をする傍ら、75歳のご自身に鞭を打ち、体を張って終着駅のない国際奉仕ライフワークに挑戦をしております。

日本でのロータリアン期間の内15年間は、タイ北部の貧困な教育環境下の小学校に図書配布を行っていたようです。その奉仕生活を通して、極貧なるが故に就学が出来ず、母国語であるタイ語を学ぶことの出来ないタイ北部・山岳部のアカ族の子供たちに出会い、その子供たちの瞳に貧困と無縁の輝きを見たそうです。

その子供たちの瞳に魅せられ、この極貧地に身を移し、この子供たちへの「就学支援、識字率向上」を始めたそうです。この11年間私財を投じての奉仕活動には辛いものがあつたようですが、しかし貧困中にも瞳を輝かせタイ語を一字一字学習するアカ族の子供たちとの絆は深まるばかりだったそうです。それには訳がありました。この地はゴールデン・トライアングルとして昔から麻薬取引、売春地帯なのです。この子供たちが就学することなく識字機会を得なければ無知なるが故にやがてその悪の道の予備軍になってしまいます。今、目の前にいるこの子供たちをその道に踏み込ませてはいけません。その強い思いが今日までアカ族子供たちへの「就学支援、識字率向上奉仕」に繋がっています。少数民族と言う歴史的マイノリティ故に貧困な生活を強いられながらも識字向上に頑張るタイ北部・アカ族子供たちと原田氏との22年間の絆を著書「続・輝く瞳に会いに行こう」(出版社 梓書院)で著しております。

今はその書籍の印税、売上代金を資金源として貧困と家庭環境に恵まれない北タイの子供たちを支援しています。その子供の数は146人になりました。そして、帰国時には全国各地で講演をし、原田氏が語らなければ知られることもないアジア片隅に住む少数民族の子供たちの貧困と識字向上支援の必要性を熱く語っているそうです。

現在も奉仕活動に奔走されている原田氏による熱い講演は、如何にロータリーの奉仕実践活動が大切かを思い知らされるとともに米山・青少年奉仕活動の大切さを思い知らされ、我々の胸に強いインパクトを与えるものでありました。

○IT・公共イメージ委員会 黒澤信之委員長



さる8月31日に開催されました、公共イメージ・IT委員会セミナーへの参加報告をさせていただきます。セミナーは、磐梯熱海温泉 華の湯を会場に、午後1時より午後4時までのタイムテーブルで97名の出席により行われました。

初めに芳賀ガバナーによる開会点鐘、挨拶、次に佐久間英一パストガバナーの地区研修リーダー挨拶があり、続けて相良元章公共イメージ・IT委員会委員長に挨拶をいただきました。挨拶の中で各クラブにのぼり旗1セットと、会員数分のポリオ撲滅啓発のためのクリアファイルを配給したことが報告されました。

～ファイルの説明～

ジャックニクラウス、あと少しうまく活用してほしいとのこと。肝心の内容についてですが、1時間の基調講演とセミナー①②、総評の構成により行われました。基調講演は、鹿児島西クラブ所属の深尾兼好様によってクラブ「広報力」 広報のいろは一知ってもらうために何が必要か—のテーマで講演いただきました。

深尾さまは、ロータリーの友 地区代表委員を3度、都合6年も務めた経験をお持ちで自身も広告、企画会社を営む、まさに広告のプロフェッショナルの方です。

講演では、ロータリー活動の認知度を上げるために必要なことについて、大変役に立つであろう貴重な講義をいただきました。

休憩後のセミナー①では公共イメージ委員会より報告がされましたが、この中で興味深かったのは、ロータリーに関する認知度アンケートの調査結果の報告です。ロータリーという団体について全く聞いたことがないとの回答は全体の26%でした。4人の内、3人は聞いたことぐらひはあるということですから、私はこの結果は上出来ではないかと感じました。しかしこれを世代別に分析してみると20代、30代の若い世代では逆に4人の内3人は聞いたことがないというような数字に近くっており、若い世代に対しての広報力を高めていく必要性も感じる内容でした。

続くセミナー②ではIT委員会の報告がされました。話の中心は毎度のことながらMYROTARYの登録状況とその促進啓発でありました。IT委員会では各クラブの登録率60%達成を目標としており県内での達成クラブ数は38であるそうです。わがクラブは68.2%で目標を達成してはいますが、県北第一分区では、福島クラブ、二本松あだたらクラブ、福島21クラブが100%の登録、その他のクラブも軒並み7割8割9割と高い登録率を誇っておりますので、大威張りで胸を張るような状況にはないようです。本質としては、登録率よりも見てなんぼ、使ってなんぼでありますし、そもそも登録の仕方がわからないというメンバーもいらっしゃるかと思いますが、ずらりと一覧表に全クラブの登録率が公表されていますので、着実に数字を上げていく努力は必要だと思います。私もお手伝いしますので、登録をまだされていない方はご理解とご協力をお願いしたいと思います。当日は午後に来る恐ろしい悪魔と必死に戦いながらの参加でした故、概略のみとなりますが以上で報告を終了いたします。

◇閉会点鐘

相澤 隆会長

※会報カメラ担当

大平 謹一郎会員